

きらきら

発行人

日本赤十字社青森県支部受託
青森県立はまなす医療療育センター
〒031-0833
青森県八戸市大字大久保字大塚17-729
TEL.0178-31-5005
FAX.0178-31-4144



2026
No.46

「当センターの利用状況について」

園長 盛島 利文



以前、当センターの入所形態について書きましたが、今回は最近の入院・入所の利用人数と利用の契機、理由についてお伝えします。

まずは、短期あるいは中長期のリハビリテーション目標を立て、医療としての訓練を集中的に行う『一般入院』は、期間を最長2週間として希望者と病棟の状況を調整し実施し、年間延べ79人（実人数44人）の利用がありました。うち、初回の短期入所や契約入所、やや長めの集中訓練の利用予定の方の夜間の様子や対応の把握を目的とした「母子体験入院」が8人、療養介護に該当しない成人の手術後における訓練目的の入院3人、ITB療法（バクロフェン髄注療法）スクリーニング検査の入院6人、3～14日間の集中訓練入院24人でした。

次に、ご家庭の事情や自宅以外の宿泊経験のため、本人のみ宿泊する福祉制度として、他の利用希望者と病棟の状況により1ヶ月未満の期間で行っている『短期入所』は年間延べ54人（実人数17人）の利用でした。

そして、手術後の機能回復、機能向上、生活習慣の獲得などを目的に、数ヶ月間行うリハビリテーションを目的とする新規『契約入所』は年間10人、医療的ケア児の医療的処置を伴う療育としての医療型障害児入所施設『契約入所』9人、ご家庭の事情により外来または生活介護を利用される方の月単位、年単位の療養介護の『契約入所』が4人で合計23人の利用がありました。

『一般入院』の集中訓練入院は増加傾向で、体験入院も成人の利用が増えています。その背景として、家庭での介護者の加齢により将来の成人施設入所等の備えとしての利用と考えています。また、重症心身障害でも医療的ケアがない方は原則療養介護が利用できないため、一般入院としている場合もありました。

『短期入所』の延べ人数は増加していますが、同じ方の利用増加傾向によるものでした。制度として他の皆様もお気軽にご利用いただければと思います。

『契約入所』も、医療型障害児入所施設では術後を中心とした訓練目的の傾向は変わりませんが、ご家族の病気や怪我、ご兄弟の学校行事や人生イベントに際しての利用がありました。

いずれにしても肢体不自由、重症心身障害に該当する方でしたら、どなたでもご利用いただきたいのですが、例外として医療的ケアのうち24時間人工呼吸器装着状態の場合は対応できる人員や設備の関係で緊急事態対応が困難な状況ですので、申し訳ありませんが宿泊を伴うサービス提供について、当面は困難としてお断りしております。

ご了承いただき皆様のご利用をお待ちしております。ご希望ありましたら整形外科外来に遠慮なくご相談ください。

「青森県東方沖地震」における被害状況について

令和7年12月8日（月）に発生したM7.5の地震により、八戸市で最大震度6強を記録し、海沿いには津波警報が発令されました。はまなすにおいても強い揺れに見舞われましたが、幸いにも人的被害もなく、また、ライフラインも被害を受けませんでした。洗濯乾燥室の壁面タイルがはがれていることが確認され修理を予定しております。

今後も今回の地震を上回る「日本海溝・千島沖地震」が想定されていますので、皆様におかれましては、各家庭において災害への備えを進めていただきますようお願いいたします。





第33回青森県障がい者スポーツ大会で金・銀メダル受賞！

去る令和7年8月～9月にかけて「第33回青森県障がい者スポーツ大会」が開催されました。2026年青森県開催の「青の煌（きら）めきあおもり障スポ（第25回全国障害者スポーツ大会）」の選考会を兼ねたこの大会において、当センターに入所の関添全仁さんがフライングディスク部門で金メダル、蛭沢健太さんがボッチャ部門で銀メダルを受賞しました。受賞おめでとうございます！

関添さん：「僕は、フライングディスクのアク્યラシーという種目に出場しました。1週間という短い練習時間でよい結果を残せるか不安でしたが、本番では緊張しながらも10投中、7投入れることができ、1位をとることができました。先生や家族におめでとうと言ってもらえたのがうれしかったです。また機会があれば出場してみたいです」



蛭沢さん：「大会では、自分はボッチャ部門に参加し、他の3人の選手と戦い、2勝1敗の成績でした。もし、1勝もできずに最下位だったらどうしようと思っていたのですが、何とか2勝できたのでうれしかったです。次に同じような大会に出るとなったときは、1位を目指したいと思いました」

トランポリンによる訓練の効果について

理学療法訓練室にあるトランポリンがリニューアルされ、新たに掴まることができる補助棒が付きまして、これにより、バランスをとることが苦手な方でも、安心して使えるようになりました。

トランポリンを用いた活動では、跳ぶことによる筋力向上や身体バランス能力向上が期待されます。運動が難しい利用者の方でも、トランポリンを使用することで、揺れ刺激に対しての楽しさ、『もう一回』や『もっと』などの意思伝達、終わってしまったという寂しさ、などの喜怒哀楽を声や表情で表現する場にもなっています。



『体育の種目にチャレンジしてみませんか？』

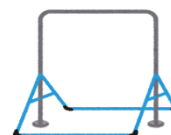


作業療法には『体育の〇〇ができない！』という相談の声が数多く届きます。「頑張って練習しよう」「苦手ならやらなくてもいい」などさまざまな考え方がありますが、そもそも体育の授業は、①知識及び技能の習得、②思考力・判断力・表現力などの育成、③学びに向かう力・人間性などを目的にしているそうです。つつい技の完成度に注目しがちですが、身体能力を伸ばすことだけではないのだと考えさせられます。

作業療法での関わりも似ていて、単純に技能を獲得するのではなく、お子さん自身が考えること、チャレンジすることを大切にしたいと思っています。

さて、今年度、作業療法室には跳び箱や鉄棒が整備されました。学校の体育の授業では失敗したくない・みられたくないと思ってチャレンジをしないお子さんも多いと思いますが、はまなすでは、一人ひとりに合わせた目標設定やチャレンジしやすい環境を整えながら『どうやったらできるようになるかな？』と一緒に考えながら練習することができます。

『できない』ではなく『できた！』の体験を利用者の皆さんと一緒にしたいと思いますので気になる方はいつでもご相談ください。



はまなすイベント便り



「のどじまん大会」観客もノリノリです！（夏祭り）

十八番「浜崎あゆみ/Seasons」



♪シャボン玉飛んだ♪ お、おっきいー！
（通園保育）



釣れたよー！（通園夏祭り）



トウモロコシおっきい！（収穫祭）



短冊に願いを込めて（七夕）



児童発達支援センター『個別保育について』

児童発達支援センターの契約児童はリハビリや言語療法、保育を受けています。その中の「個別保育」についてお話しします。個別保育はお子様一人に対して保育士1名で行う保育で、登園日に合わせて週1～2回、40分間実施しています。個々の契約児童の発達に合わせた玩具や教材を用い、それぞれのつまづきへのアプローチを繰り返し行ったり、得意なことを伸ばしながら、様々な理解力の向上、コミュニケーション能力の向上などを図ります。

ごほうびシールや好きなキャラクターなどを用いながらお子様一人ひとりの個性に合わせて行うことで「たのしい!」「がんばる!」「できた!」「もっとやりたい!」という子どものやる気がステップアップしていけるように支援しています。

個別保育終了後には、親御さんに個別保育の様子、内容、今後の目標などをお伝えしています。

また、家庭における保育等で何か困っていることがあれば、相談することもできるため、好評を得ております。

ご家庭やセンターでの様々な経験を継続し積み重ねて行うことが、お子様の大きな成長につながり、その成長した姿を見る度に、私達スタッフもうれしい気持ちでいっぱいになります。今後も児童発達支援センタースタッフ一同、親御さんと力を合わせてお子様の無限の可能性を引き出すことができるよう、支援して参ります。



「医療的ケア児等支援シンポジウム」に参加しました

令和7年9月23日（火・祝）にリンクステーションホール青森で青森県小児在宅支援センター主催の「青森県の医療的ケア児支援～今を知ろう～」をテーマに、「医療的ケア児等シンポジウム」が開催され、通学支援とレスパイトに関するシンポジウムと県内で医療的ケア児支援に関わっている施設や団体などのパネル展が開催されました。会場には県内全域から150名以上の参加があり、また、パネル展にも30以上の団体参加がありました。当センターもこのパネル展に参加し、施設の紹介を行いました。



クマ対策のため柿の木などを伐採しました

はまなすの敷地内にはサクランボ、梅、栗などの木があり、中でも、柿の木は樹齢20年以上で、毎年たわわに実をつけていました。近年クマの被害が増え、特に今シーズンは柿の木にクマが登って柿を食べている様子などが報道されています。

このような事態を受けて、当はまなす医療療育センターにある柿の木などを職員が伐採しました。



クマ対策のためドアが手動となっている場合があります

令和7年10月30日八戸市の「ほっとスルメール」に隣接する八戸第一養護学校付近におけるクマの目撃情報が発せられたため、一時センター内すべての自動ドアを手動に切り替えて営業しておりました。現在は通常営業に戻し、今後は目撃情報を見ながら対応して参ります。

なお、土曜・休日の児童玄関については、手動とさせていただく場合がございます。皆様にはご不便をおかけいたしますがご了承ください。

※利用者様からご要望のありました手動切替時のドアの取っ手については対応済みです。



編集後記： この冬から登場したインフルエンザワクチン点鼻薬。注射と違って痛くない、1回の接種で済むなどの利点があり、特に小さいお子様のいらっしゃるご家族から多くのお問い合わせをいただいております。当センターでも受け付けておりますのでご利用ください。